

IV. 「地域の活性化」への貢献

1. 「地域の活性化」に向けた基本的考え方

人口減少・超高齢社会が確実に到来する中で、地域の活力が失われつつあります。このような中、JAグループは、食と農・生産者と消費者の距離を縮めるため、協同活動による「地域の活性化」へ取り組みます。

これまでJAは、総合事業という強みを活かし、地域住民が必要とする生活サービス提供による生活インフラ機能とくらしの活動を通じて、地域コミュニティの活性化に貢献してきました。

今後ともJAは、支所・支店といった拠点と総合事業という強みを活かし、組合員・地域住民に対し、JAくらしの活動とJA事業を積極的に展開することで、協同の輪を広げます。

- ① JAは、「住み慣れた地域での『助けあい』を軸とした地域セーフティネット機能」を發揮します。
- ② JAは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として支所・支店を拠点とした協同活動を通じて、「食と農、地域とJAを結ぶ」取り組みを拡充します。
- ③ JAは、組合員・地域住民のニーズや実態を把握し、行政、集落、商工会等地域の諸団体とも連携し、政府が進める「地方創生」へ積極的に参画します。

2. 地域実態・ニーズを踏まえたJA事業とJAくらしの活動の展開 9

JAは、支所・支店を核に、組合員・地域住民のニーズの把握とそれに沿った事業を展開します。

また、助けあい組織や女性組織による地域コミュニティの活性化に取り組みます。

(1) 支所・支店等を拠点とした「JAくらしの活動」の実践

JAは、地域で最適なJA事業とJAくらしの活動を実施するため、支所・支店を拠点として、情報発信と組合員・地域住民のニーズを把握する取り組みを展開します。

そして、職員の一人ひとり（生活渉外・信用渉外・LA等）が、組合員・地域住民に対する日々の訪問活動を通じて、JA事業と併せて、JAくらしの活動についても提案し、組合員・地域住民の積極的な参加を促します。

また、組合員・地域住民から得たJAへの「思い」や「ニーズ」について、支所・支店内はもとより、本所・本店とも連携を図り、JA全体で着実に共有し、JAの事業実績に反映します。

(2) JA事業を通じた生活インフラ機能の發揮

JAは、総合事業（販売、購買、信用、共済、厚生、直売・加工、旅行、介護等）を通じて、組合員と地域住民の生活インフラ機能の一翼として役割を發揮します。

また、JA直売所をJAくらしの活動や組織基盤強化においても重要な機

能を担う拠点と捉え、地域農業の振興及び地域の活性化に向けた取り組みを強化します。

連合会は、地域社会が抱える生活課題に柔軟に対応した地域貢献活動を拡充します。また、農林中金は、過疎地等への金融サービスの提供(地域貢献)及び災害時の金融機能維持の観点から、J Aにおける移動店舗の導入を促進します。

(3) J A 暮らしの活動を通じた地域コミュニティの活性化

J Aは、助けあい組織を中心に「J A健康寿命 100 歳プロジェクト」等を通じて高齢者福祉活動を展開し、市町村の地域支援事業へ積極的に関与します。

また、地域農業の理解促進及び農業者への意欲喚起の観点から、地域住民の幅広い世代を対象に食農教育や交流活動・地産地消等により、新たな J Aの利用者や地域農業の応援団づくりを進め、地域コミュニティの活性化に取り組みます。

さらに、J Aは J A女性組織による地域の子育て支援活動、助けあい活動への参画及び市町村の地域支援事業の受け皿となることへの支援とともに、地元産農畜産物を利用した加工品等新商品の企画・開発などの女性パワーの発揮を支援します。

(4) 結婚活動(婚活)の支援による地域の活性化

J Aグループは、J A女性組織と連携し、県による「おかやま出会い・結婚サポートセンター」や市町村等を通じて、そのネットワークや地域情報を活用し、未婚の若者の出会いの場を提供するなど、結婚活動を支援し、地域の活性化を図ります。

3. 「地方創生」への積極的な参加による地域社会づくりへの貢献

J Aは、行政や他団体と連携して「地方創生」に積極的に参画し、地域社会・農業のグランドデザインである「地方版総合戦略」の実践に取り組み、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として役割を明確に位置付け、今後とも農業と地域の振興に十分な役割を發揮します。

4. 循環型社会に向けた取り組み

環境問題が深刻化する中、J Aグループは、循環型社会の確立を目指し、地域資源を最大限活用した家庭用ソーラーパネルの普及や小水力発電事業など再生可能エネルギーの利活用や、みどりのカーテン、マイ箸・マイバッグ運動など組合員・役職員による地球温暖化等の環境問題へ取り組みを進めます。